

課題が山積の現況。



警察庁保安課
小柳誠二課長

「遊技くぎ」等の問題で対応に追われたパチンコ・パチスロ業界でしたが、新しい年ではより一層の健全化を図り、社会から共感される産業を目指していきます。恒例の新春特別対談は警察庁生活安全局保安課、小柳誠二課長をお迎えし、日遊協、庄司孝輝会長と業界の今後について率直な意見交換をしていただきました。小柳課長は「遊技くぎ」に関して、「射幸性の適正管理を侵害するという営業の根幹を揺るがしかねない問題であること」を、全ての業界関係者の共通認識とすることが肝心」と指摘、解決に向けて業界全体での取り組みに期待を込めました。庄司会長は「業界唯一の横断組織として行政とのパイプを太くし、健全な娯楽を目指した取り組みを推進していく」と抱負を述べました。

**パチンコ産業にとり
昔から抱えていた
様々な事案が表面化**

庄司会長 明けましておめでとう
ございます。今年もよろしくご指
導のほどをお願い申し上げます。
私どもパチンコ・パチスロ産業に
とって昨年(2015年)は、次々
に出現する重要課題の対応に追
まくられた感じの1年でした。今
年は業界が、新たな産業として社
会からどう受け止められるか、ど
う見直されるかの、大切な年とな
りそうです。より一層の健全化を
図り、社会から共感される産業に
生まれ変われば、これからの繁栄
につながっていくと信じています。
さて、保安課が扱う幅広い対象
のひとつに私どもの産業があるわ
けですが、保安課長として2度目
の新年を迎えられ、これからの抱
負をお聞かせください。

小柳課長 明けましておめでとう
ございます。本年もよろしくお願
いいたします。

一昨年の12月に着任してから、
早くも1年が過ぎました。この1
年間を振り返ってみますと、のめ
り込み問題やくぎの問題など、ぱ

横断的組織の特色生かし 業界健全化のリードを



日遊協
庄司孝輝会長

厳しい状況の中で、明るい業界への展望を語り合う小柳誠二課長（右）と庄司孝輝会長

ちんこ産業にとっても、様々な課題が表面化した年だったのではないかと感じています。その多くは、昔から業界で抱えていた問題でもあると感じております。

警察といたしましても、継続して発生している賞品買取りや遊技機の不正改造等の違法行為に対しても、今後も厳正な取締りを行うとともに、日遊協をはじめ業界の皆様との自主的な取組を支援しながら、ちんこ営業の健全化に向けた施策をより一層推進していきたいと考えておりますので、御理解と御協力をお願いします。

高射幸性機の撤去で 業界全体の合意 自主的な努力を評価

庄司 国会での1R法案審議を待つまでもなく、ちんこ遊技における依存問題に対して社会的関心が強まっています。昨年の日遊協総会での課長講話でも、業界の健全化を推進する上で、第一に射幸性の抑制が挙げられていました。

これに関する大きな動きとして、昨年、射幸性の抑制に向けて6団体（全日遊連、日遊協、日工組、日電協、全商協、回胴遊商）が

「高射幸性遊技機の取り扱いについての合意書」及び「高射幸性遊技機についての申合せ」を締結し、高射幸性遊技機の自主撤去に向けて業界全体で動き出しました。

小柳 昨年においても国会等で、ぱちんこ遊技客の依存・のめり込み問題が取り上げられるなど、ぱちんこ産業に向けられる国民の視線はこれまで以上に厳しくなっていると感じています。

そのような中で、射幸性の抑制に向けた業界を挙げての取組の1つとして、高射幸性遊技機の自主撤去というものが検討され、昨年9月には業界全体で合意に至ったと承知しておりますが、このような動きが業界の自主的な努力によって成されたということは非常に喜ばしいことだと考えております。今後ともぱちんこが、国民が安心して遊べる娯楽として社会から認められるよう、日遊協を始め業界が一致団結し、射幸性を抑制するための様々な取組を、引き続き早急かつ着実に進めていただきたいと思います。



小柳課長は業界の更なる健全化努力を求めた

小柳 誠二 課長 ● 略歴
神奈川県出身。東京大学経済学部卒。1991年警察庁入庁。千葉県警捜査二課長、在中国日本大使館一等書記官、警視庁広報課長、京都府警刑事部長、警察庁長官官房人事課監察官、北海道警警務部長を歴任、14年12月、保安課長。48歳。

「依存問題対応G.L」 現場での運用が大切 効果的な改訂も必要

庄司 昨年、パチンコ・パチスロ産業21世紀会が「パチンコ店における依存（のめり込み）問題対応ガイドライン」や「運用マニュアル」を策定しました。これには日遊協が依存問題プロジェクトチームを中心に主導力を発揮したと思っています。

また、お客様が1日の遊技の使用上限金額を自ら申告し、設定値に達した場合、翌来店日にホール従業員が当該会員に知らせる仕組みの自己申告プログラムも、日遊協と設備機器団体の手で完成し、

導入されました。ガイドラインは全国のホールでの運用が始まっていますが、いかに効果的に行えるかに腐心しています。

小柳 ぱちんこ店におけるのめり込み問題については、遊技を提供する立場にある業界において、自ら積極的に取り組むべき課題として認識され、対策の検討が進められていることが重要だと認識しております。

そうした中で、日遊協が主導力を発揮し、「パチンコ店における依存（のめり込み）問題対応ガイドライン」や「同運用マニュアル」等を速やかに作成していただいたことについては、業界の健全化に一定の成果を収めたものと頼もしく感じています。

今後、このガイドライン等がいかに現場で有効に運用されるかが重要であると考えています。実際にガイドライン等を運用していく

ホールの皆様への指導教育を、今後も継続して実施していただくことに加え、必要があれば、ガイドライン等をさらに実践的なもの、効果的なものに改訂していくことも重要であると思いますので、今後とも適切なフォローアップを実施していただきたいと思います。

これらの取組が、のめり込みの人が抱える問題の解決に寄与するとともに、その家族を始めとする関係者の方々の理解を得るものとなることを期待しております。

営業の根幹揺るがす 遊技くぎの問題 共通認識の構築を

庄司 ぱちんこ遊技機の一般入賞口に玉が入らないような仕様を改変する、いわゆる遊技くぎの問題も、昨年明らかになった大きな問題でした。警察庁の通知以降業界に様々な情報や考え方が乱れ飛び、改善に踏み出すどころか混乱を深めてしまったため、日遊協は全国7支部で勉強会を開き、「こうあるべき」との一応の方向性をホールに示唆しました。

しかし、遊技産業健全化推進機構の遊技機性能調査では芳しい改

善が見られず、ついに、「検定機と性能が異なる可能性のある遊技機」の撤去要請が出されました。

小柳 遊技くぎの問題については、射幸性の適正管理を侵害するといふばちんこ営業の根幹を揺るがしかねない問題であることを、ホール、メーカー、販売会社を含め、全ての業界関係者の共通認識とすることが何より肝心であると考えております。

昨年一年間、行政から様々な機会を捉えて働きかけを行ってまいりましたが、業界がその度に右往左往するような状況となつてしまふのは、そのような共通認識が業界を通して未だに構築されていないからだと感じております。

新年を迎えて、業界全体がくぎ問題の解決に向けて取り組むことができるよう、業界団体のご努力に期待いたします。

不正改造の手口は ますます悪質巧妙化 積極的に取締まる

庄司 遊技機の不正改造の手口は悪質巧妙化して依然として頭の痛い問題です。業界は「いわゆるゴト行為等への迅速な対策を講じる

ためのガイドライン」の周知徹底や不正に強い遊技機づくり、PS IO（遊技産業不正対策情報機構）での情報収集などで対処していますが、イタチゴッコの状況です。

小柳 日遊協は、PS IO事務局として、また、セキュリティ対策委員会事務局として、これまでも精力的に不正改造防止対策に取り組まれ、また、ゴト事犯については、その実態と対策を業界全体に周知徹底しながら、対策を講じられているものと承知しています。

一方で近年の不正改造の手口は、主基盤の改造や、周辺基盤のロムのプログラム改ざん等を、偽造カシメで隠蔽するなど、ますます悪質巧妙化しています。

このような厳しい状況の中、業界では不正改造情報収集、周知徹底やこれを生かした不正に強い遊技機づくり等の様々な取り組みを推進されているものと承知しておりますが、警察としても遊技産業健全化推進機構と連携しな

から、積極的な取締りを行ってきたいと考えています。

今後も様々な悪質で巧妙な不正改造等が発生してくることが予想されますが、引き続き、業界全体の取組として、不正改造されにくい遊技機の開発に努めるとともに、より効果的な対策・施策を進めていただきたいと思っております。

着実に実績重ねる 推進機構の活動 不正根絶の機運を

庄司 推進機構は従来からの遊技機、計数機を対象としたホール立入検査に加えて、昨年6月から警察庁の要請を受けて遊技機性能調査を行っております。

小柳 遊技産業健全化推進機構の

活動については、立入り店舗数が既に2万2千店舗を超え、この立入り検査を端緒に検挙に至った事例も多数あるなど、着実に実績を積み重ねています。また、昨年6月から実施されている遊技機性能調査についても、業界の健全化を図る上で有意義な取組の1つであると考えております。

推進機構の活動が効果的に行われるためには、推進機構に対する業界全体の理解が不可欠です。業界全体で不正改造の根絶を目指す気運を高めていくとともに、推進機構の活動についての理解の周知徹底も引き続きお願いしたいと思います。

今後、業界の皆様協力の下、推進機構の検査・調査が行われ、不正改造等の根絶に向けた取組が進められることを期待しています。警察としても、引き続き、推進機構と連携しつつ、厳正な指導・取締りを推進していきたいと考えています。

新台設置と部品交換 要綱などルール整い 近く施行の運びに

庄司 新台設置・部品交換のルー

難しい状況をどう打開するかを話す庄司会長

ルづくりは、日工組、日電協、日遊協の3団体で協議を続けた末、要綱、業務委託規程及びその他の関連規定がようやく整い、近く施行の運びとなっています。警察庁からルール作りを要請されたのが昨年1月のセキュリティ対策委員会会で、それから1年がかりの作業となり、ようやくゴールに辿り着きます。

小柳 遊技機の設置や部品交換時に添付が義務づけられている保証書については、その遊技機が検定を受けた型式と同一であるということとを製造業者が保証するものです。この保証がなければ、都道府県公安委員会としても、適正な性能の遊技機であるか判断できませんし、保証の問題については、遊技機の射幸性の適正管理の問題にもつながる重要な問題でありますので、厳格な制度設計の構築と運用をお願いしていたところです。

そうした中、業界内において、新たな制度設計について検討が進められ、近く施行されるに至ったということは、非常に喜ばしいことと感しております。

今後も、新たな流通制度について検討を重ね、よりよいルール作

りに努めるとともに、新たな制度運用の開始を一つの契機として、各種法令やルール等が遵守されるよう業界全体の健全化を更に進めていただきたいと思います。

悪質な事案目立つ 違法な広告・宣伝 全体の認識改めて

庄司 業界をあげて依存対策を進めている中で、広告・宣伝の健全化は重要なテーマの一つです。行政処分件数が依然として多いと聞いています。巧妙で悪質な表現で射幸心をあおっています。業界と

して真剣に対応していかななくてはならないと考えています。

小柳 広告・宣伝等に関する違反については、依然として、特定の日に特定の遊技機を示し、イベント開催を告知して射幸心をそそるものや、くぎを開く等の違法行為の宣伝に関するもの、隠語等を用いて規制の目をかいくぐるうとするような悪質な事案が発生しており、非常に残念に感じています。

射幸心をそそり、客をのめり込ませるような広告・宣伝を行うことは、現在業界全体で進めているのめり込み防止対策に逆行する行

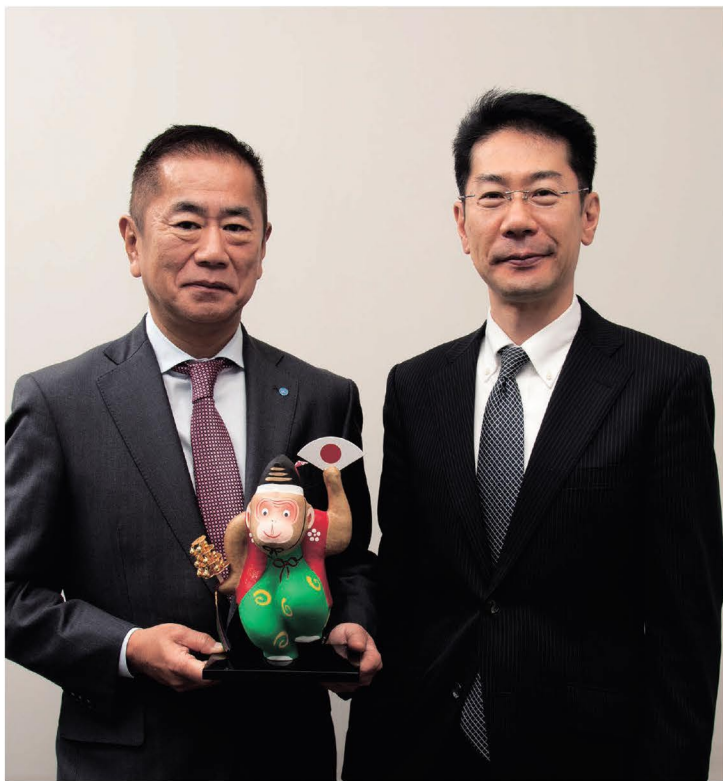
為であると思います。

違法な広告・宣伝等については、今後も警察による指導・取締りを行っていきますが、警察の指導・取締り等によって健全化が進められるのではなく、業界全体で認識を改めていただき、業界自らの取組によって広告・宣伝等の健全化が進められるよう努めていただきたいと思います。

賭博と一線を画す 賞品買取の規制 本来の身近な娯楽へ

庄司 昨年7月の日遊協総会での課長講話では、業界の健全化を進める上での要点の一つとして、賞品に関する問題についても指摘されてきました。賞品買取り行為の規制、賞品取り揃えの充実、適切な賞品提供の徹底の3点についてでした。いずれもいつもご指摘を受けながら、進展していない課題です。**小柳** 賞品買取り事犯の検挙件数については、増加傾向に歯止めがかからない状態にあり、組織的に買取り行為を行うなど悪質な事案も後を絶ちません。

このような状況を踏まえ、警察庁では、昨年4月に賞品買取り事犯



新しい年への期待をこめて庄司会長は手に干支の「申」を持って

についての量定基準を見直し、営業停止の基準期間を3月相当に引き上げたのはご承知のことと思いますが、業界としても、賞品買取り行為の規制がばちんこ営業と賭博の1線を画す重要な規制であり、ばちんこ営業の根幹に関わるものであるということをご承知していただきたいと思います。

また、客の多様な要望を満たすように賞品を取りそろえることが、国民の身近な娯楽としてのばちんこ本来の姿を取り戻す上で、非常に大切なことであると思いますので、そうした意識が業界の共通認識となるよう日遊協が業界をリードしていただきたいと思います。

置引き対策としては 情報を共有して マニュアルの浸透を

庄司 ホールの置引き対策ですが、昨年は「改善の兆しが見られな」と、きついお叱りをいただきました。日遊協は「ばちんこ店における置引き防止対策および事例」を策定し、依存問題と合わせて全国で研修会を催しましたし、全日遊連は「置引き防止マニュアル

ル」を発表し、従業員教育など防犯体制の整備に動いています。

小柳 置引きについては、昨年3月に21世紀会として「置引き防止マニュアル」を策定していただき、現在も業界をあげて、その取組が進められているものと承知しております。

その結果が現れるのはこれからだと思いますが、マニュアルの策定に満足することなく、その内容をホールに浸透させるとともに、さらに効果的に活用できるように改訂を行いながら、強力に防止対策を進めていただきたいと思います。

また、全国の効果的な事例や、発生した事案の情報を継続的に収集・共有するなどして、全国の各ホールが遊技客にとって安心できる場所となるよう効果的な施策を検討し、業界全体の取組として推進していただきたいと思います。

社会的な評価は 一朝一夕でならず 地道な社会貢献を

庄司 日遊協は社会貢献・環境対策事業にも力を入れています。ここ3年は林野庁の計画に賛同し、東日本大震災の大津波で全滅した

海岸防災林の復旧に全力を挙げています。今年も5月に宮城県東松島市で植林をする予定です。

また、埼玉県嵐山町での、青少年のための「共生の森」造成も平成8年から10年計画で続けています。植林は終了し、毎年下草刈りなどの手入れをしています。地道に社会貢献を果たしていくことが、業界の活性化と評価につながっていくと思っております。

小柳 東日本大震災から、5年近くが経過しましたが、現在も貴協会による復興支援活動が継続されているほか、里山造成事業、清掃活動等様々な社会貢献活動を継続して行われているとのことであり、その献身的な対応に敬意を表する次第です。

業界の進める社会貢献活動については、各企業や団体が、「社会的な責任を果たしたい。」という強い使命感に基づいて、社会福祉事業への支援に加え、清掃活動等により地域との関わり合いを持って進めておられると承知しております。

社会的な評価は一朝一夕で得られるものではありませんが、このような活動を幅広く浸透させ、地道

に継続していくことが、ひいては、業界全体の活性化と評価につながっていくものと感じております。

今後とも、こうした活動が継続され、業界全体の評価向上につながっていくことを期待しております。

庄司 日遊協は2014年4月に一般社団法人に移行し、順調に歩んでいます。これからも業界唯一の横断組織として行政とのパイプを太くし、健全な大衆娯楽を目指した取り組みを推進していきます。

小柳 日遊協は、これまでも業界唯一の横断的組織として、各業界団体との連携を深めながら、射幸性を抑えた遊技機の開発、不正防止対策、環境対策等に対して、長きにわたり、真摯に対応してこられたと承知しております。

業界の健全化を推進する上での課題が山積している昨今において、日遊協に期待する役割は、これまでに以上に大きくなっていると感じております。

今後とも、業界の横断的組織という日遊協の特色を発揮され、ばちんこ営業の健全化に向けて、一層業界をリードされるよう期待しています。